

水産食料品製造業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	1	14～ 15	作業後、工業敷地内の外のゴミ捨て場へゴミを捨てようとしたとき、凍結していたため足を滑らせて転び、右肘を強打した。	51	719	2	10 ～ 29
2017	1	15～ 16	乾燥工場から事務所へ移動中、足を滑らせて転び、左手を打ち左手首を骨折した。	68	417	2	10 ～ 29
2017	1	14～ 15	送迎バスを運転するためバスに乗ろうとした時、路面が凍っていて滑り、転倒した際に車のタイヤハウスに右脇腹を強打した。	60	719	2	10 ～ 29
2017	1	9～ 10	板を両手で挟んで持ち上げ、作業台の上に上げていたとき板が右側へ少し傾き、落とさないようにと右手の方へ力が入り、特に板の下を支えていた右手親指に力がかかり、右手親指の付根の関節がゴックキと音がし、板を置いたあと激痛で作業用ハサミと包丁を握ることができなくなった。	68	921	19	10 ～ 29
2017	1	11～ 12	次の作業に移る準備中、たて3m90cm、よこ90cm、高さ70cmのステンレスの作業テーブルを移動して4つ繋げるとき、下の足の部分を固定しようとして屈んでいて、他の者が別のテーブルを持ってきて勢いがついてぶつかり、右肩と右首を痛めた。	59	419	6	10 ～ 29
2017	1	13～	休憩が終わり、仕事のため階段を下りる途中に左足を着いたとき、	63	413	19	1～

		14	膝に激痛がはしり、そのあと足を着けなくなった。				9
2017	1	8～9	第2工場包装室内に於いて、練り製品ラミ入れ作業中、製品の位置を直そうとして機械内部に右手を入れてしまい、右手第二指第一関節付近をカッター一部に挟み、4針縫う怪我を負った。	28	165	7	100 ～ 299
2017	1	9～10	かまぼこを7枚1組に包装するためのピロー包装機の操作中、一旦作業を中断するために包装機を停止し、包装機内のかまぼこを取り出したところ、まだ1枚残っていたため、排出ボタンを押し（押すと一度刃が上下してから停止する仕組み）、停止したと思い包装機内に手を入れたところ、刃が下りてきたため左手中指爪の中程から先を切断した。	54	169	7	50 ～ 99
2017	1	12～13	工場内スライス室において、スライサーの洗浄作業をしている際に、スライサーの刃に不用意に動かした右手人指し指が触れてしまい、指先を3mm程度切断してしまった（4針縫合）。機械は停止している状態で行ったが、手袋はあるものの着用していなかった。	28	165	8	100 ～ 299
2017	1	16～17	2号パック場の清掃中、つまずき転んでしまった。	55	417	2	30 ～ 49
2017	1	8～9	出勤時、社員玄関前の一部凍結した歩道で転倒し、左足大腿部を骨折した。	58	719	2	300 ～ 499
2017	1	13～14	ペットフード原料製造開始前に、麺切り機のアルコール洗浄する際、電源を切らず安全ガードカバーをはずして行ったため、ローラーに右手を挟まれてしまった。	26	165	7	50 ～ 99
2017	1	21～22	1F播漬作業中、調味料をすくう金属製のヒシヤクの角が当たって切傷となった。流水で流し血を止めて作業をしたが、腫れがひどくなり、菌がついて化膿していたため、切開処置に至った。	31	364	8	100 ～ 299
			自社2階にある更衣室の清掃をしている時、天井に設置してある扇風				50

2017	1	10～ 11	機をパイプイスに上がり掃除していた。掃除を終え、イスから降り床にあるスリッパを履こうとしたときに足を滑らせてしまい、左手首をついて転倒し、左手首を骨折した。	61	371	2	～ 99
2017	1	1～2	粉碎工程にて運転不調があり、被災者が支援に入った。乾燥機出口のサイクロン下部ロータリーバルブからの粉末排出が悪いため確認しようと、出口側のパイプから右手を入れたところ、ロータリーバルブの回転体に中指を挟まれた。	25	165	7	100 ～ 299
2017	1	16～ 17	一人が製品のバンドがけを行い、職員がバンドがけの終わった製品を積む作業中、バンドをかける前に職員が手を出してしまった為、左上腕部が製品と一緒にバンドがけされ受傷した。	40	169	7	50 ～ 99
2017	1	17～ 18	第二工場で作業終了後、清掃が終わり、ゴミを出しに行った際、ゴミを収納する物置の扉が堅く力を入れて開けた所、扉がはずれ右足に落下し負傷した。	25	418	4	30 ～ 49
2017	1	10～ 11	弊社工場内包装室天ぷら2号ラインピロー包装機にて、包装紙切替作業中にカッター一部分に指を挟まれ、右手中指先端を切断した。	23	165	8	50 ～ 99
2017	2	9～10	前日から始まったワカメの加工中、茹で方を担当していた者が足を滑らせて前方にあった茹で釜（水槽）に転落した。作業をしやすくするためにプラスチックケースで足場をかさ上げして使用しており、その足場の上に茹でたワカメの破片が落ちて、これを踏んで滑ってと考えられる。	51	341	1	1～ 9
2017	2	8～9	工場内製造一課にて冷凍スリ身をブロックカッター機械で裁断していたが本来ならスリ身を戻さないが、きちんと切れなかったため押し戻した際、上から降りてくる刃に指が触れ右手人差し指骨折裂傷してしまった。	47	165	8	50 ～ 99
			本社工場内において、ワカメカット作業中、フレッシュワカメカット作業からボイルワカメカットに切り替えるため、刃を外し洗浄作業を行う。刃の清掃作業が終了し、次の作業のための刃を取り付け				

2017	2	9~10	る。刃を取り付けた後、若布の残骸に気づき機械に手を入れ左人差し指を切断する。（安全カバーのセンサーが不具合を起こしていた。）被災者は、刃を取り付けたことを忘れていた。また通常はスイッチを入れた状態で手を入れると、安全カバーが外れた状態では作動はしない。	50	165	8	30 ~ 49
2017	2	8~9	店にて商品を納品して駐車場に戻ろうとして階段二段ほどを踏み外して転んだ。その弾みで右足くるぶしを骨折した。	52	413	2	1~ 9
2017	2	11~12	完成した製品を凍結庫に入れるため、凍結庫の霜に近づいたところ、扉に付着していた氷を外したものが床にくっついているのに気付かず踏んでしまい、足が前後に開き尻もちをつき、体が倒れないように右手を突っ張り、体を支えた。当日は、亀裂骨折に気づかず、そのまま作業を続けたが翌朝、指が腫れていたため整形外科でレントゲンを撮ったところ、亀裂骨折が判明した。	66	417	2	—
2017	2	7~8	作業工場内において、作業準備として、まな板3枚を次亜塩素酸液を洗い流すために場所移動しようとした際にU字溝の蓋の部分でまな板を持ったままの状態ですべて滑って転んでしまった。右手はU字溝の蓋で切って左手はまな板に挟まれ損傷した。	62	417	2	10 ~ 29
2017	2	10~11	当事業所敷地内において、パレットの片付整理時に1枚のパレットを後ろ向きに引きずって、2段ほど重ねてあるパレットの上に重ねようとしたところ、目測を誤り重ねてあるパレットの穴に片足がはまってしまい、そのまま後ろ向きに倒れ込み、抱えていたパレットに挟まれて負傷した。	47	611	2	30 ~ 49
2017	2	14~15	金属探知機と前の台とを接続するものが外れていたため、はめようと、重い金属探知機の脚を腰を屈めて持ち上げた時、負傷した。	58	391	19	50 ~ 99
2017	2	15~16	弊社第4工場内で回転乾燥機の回転部内側（直径115cm、床からの高さ140cm）の部品を交換し、管内から出る際踏み台として使用したプ	57	379	1	50 ~

			ラスチックコンテナ（49×33×H26cm）を踏み外して転倒し床で後頭部を打ち負傷した。				99
2017	2	13~14	第三工場おにぎり包装3部署おにぎり包装1号機にて検品中、フィルムの柄ずれが発生したので修正の為操作盤まで移動の際、床に落ちていた海苔を踏み転倒し、右手首を負傷した。	48	417	2	300 ~ 499
2017	2	5~6	冷蔵庫前のコンテナ下段に製品を詰めている時に、下段が詰めにくいためコンテナを持ち上げようと進入してきたフォークリフトの爪とコンテナの間に足を挟まれた。それ程重症とは思わず、湿布を貼って様子を見た。	62	222	7	1~ 9
2017	2	15~16	収穫したワカメを85~90℃位の温度の海水でボイルし、その後すぐに冷却する作業中に、お湯を張った水槽にあるゴミを網ですくおうとして前かがみになった時、バランスを崩し水槽の中に左手が入り、火傷してしまった。	30	341	11	30 ~ 49
2017	2	11~12	資材置場からキャップの入った木箱（67×45×38）を工場内に入れる際、通過する水洗い場において、普段は機具の洗浄は作業終了後にするので床は濡れていないが、今回マットが湿っていたため木箱を抱えたまま、滑って転倒し、全身を打撲した。	54	417	2	10 ~ 29
2017	2	9~10	被災者は鰹の切り身を並べた金属製パレット（8段積）を台車に乗せて工場内を移動する際、荷崩れを起こしたパレットを支えようとして左手小指をパレットの間に挟み負傷した。被災者は通常同作業の際に使用する通路を使用せず、若干段差がある通路を勢いをつけ急角度で台車を引っ張ったため荷崩れを起こした。	63	611	7	10 ~ 29
2017	2	10~11	加工場内の作業場で、バンドソー機械で魚をカットしている時に、魚が機械の刃の部分に挟まった為、機械を止めて取り除こうとした際に誤って右手の中指を切ってしまった。作業中は厚手の革手袋を着用しているが、手袋をつけたままでは魚片を取り除けなかった為はずしていた。	35	165	8	50 ~ 99
			工場焙焼室にてバケツを右手に持って移動中、濡れていた床に足を				

2017	3	18~19	滑らせ尻もちをつき、左手も床についたが、そのとき左肩が外れた状態になった。自力で肩を戻して様子を見ていたが、痛みがとれなかった。	61	417	2	10 ~ 29
2017	3	8~9	屋内作業所で空パンを台にタンクを斜めにして洗浄していたところ、空パンがずれて右足の甲にタンクが落ちた。痛みがあるが仕事を継続したところ、翌日に腫れ・痛み・変色が見られ、小指骨折だと分かった。	73	611	4	100 ~ 299
2017	3	16~17	工場機械室で冷凍機停止作業中、頭の上くらいの高さにある冷凍機バルブのボルトをレンチ（長さ50cm、重さ2.3kg）で緩めるため力を入れたところ、レンチがボルトにはまっておらず外れ、左膝に落とした。	68	364	4	50 ~ 99
2017	3	13~14	加工場内でホタテの寿司ネタを整生加工中、包丁で誤って左手親指を切った。	61	364	8	30 ~ 49
2017	3	17~18	敷地内工場壁面を工業用高圧洗浄機を使用し清掃していた際、工業用高圧洗浄機のスイッチを不意に切られたため、水圧が掛からなくなり、体勢を崩し股関節を負傷した。	57	391	19	10 ~ 29
2017	3	11~12	冷凍工場にて魚をブリキ（冷凍パン）に入れて整列、集積する機械（自動生積機）の稼働中、生処理終了間際になって、通常は8段積で完了することになっている手順をオペレーター（リフト操作兼任）が9段積に変更してあることを知らずに作業終了と勘違いし、通常トラブル時に使用する非常停止ボタンを押さず、機械の中に身を乗り出し、落ちている魚を清掃していたところ、上から機械が降りてきて、フレームの間に体を挟まれた。	57	169	7	100 ~ 299
2017	3	9~10	工場内において、大きいタンクに水を入れるためにハンドリフトで運んでいるとき、足を滑らせ転んで足を捻り、膝蓋骨を脱臼した。	42	417	2	50 ~ 99

2017	3	13~14	工場内で作業室へ移動していたところ、加工室の洗いの横の床が濡れており、不注意で滑って転倒した。転倒した際に左手をつき、痛みはあるものの、そのまま勤務をして帰宅した。翌日に手首が腫れ、骨折が判明した。	66	416	2	50 ~ 99
2017	3	8~9	工場内のねぎとろ製造場内において、ねぎとろの製造をするためにサイレントカッターを回転させていたところ、誤って右手が接触し負傷した。	62	165	8	10 ~ 29
2017	3	18~19	作業が終了したため手洗いをし、長ぐつを脱ごうとした際に転倒し負傷した。	70	911	2	100 ~ 299
2017	3	9~10	加工場内で整形作業中、包丁が滑り左手を負傷してしまった。	25	364	8	30 ~ 49
2017	3	11~12	作業場で午前中の作業を終えて、作業用の手袋をしたまま右手にほうきを持ち、作業場の真ん中から左右両方にスライドさせて開け閉めする扉の右側レールを掃除し、左手で扉を右にスライドさせた時、勢いよくスライドさせてしまい、扉が跳ね返ってきて、扉と扉の間に左手の中指を挟み、負傷した。（扉：鉄製、高さ約35cm、横約1m程度）	43	418	7	30 ~ 49
2017	3	12~13	1階から2階に階段を上っていて、中間にある踊り場付近で1階にエプロンを忘れたことに気付き、取りに戻ろうと方向転換して下りようとしたところ段を踏み外し、手すりに手をかけたが支えきれず、階下まで横回転して落下した。	41	413	1	10 ~ 29
2017	3	11~12	当社前処理室でヒレ取り機で鮭のヒレを取る作業中、誤って左手の人さし指の爪を切った。	32	165	8	50 ~ 99
2017	3	10~11	当社1F抜梱室にて、冷凍さわら（20kg、20~30尾の冷凍ブロック）の抜梱作業（ダンボールから冷凍さわらを1尾ずつにバラす）をして	64	911	90	50 ~

			いたとき、右手にさわらの背ビレが刺さった。				99
2017	3	3~4	工場の2階休憩室で15分の休憩をとっていたが、休憩を取り過ぎそうになった為、慌てて工場に戻ろうと右手で手摺を持ったまま、1段飛ばしで階段を下りた。最下段（床面）に左足を着こうとした時、下から1番目の滑り止めに左の踵が当たり、バランスを崩し、左足首を捻った状態で着地し、尻もちをついた。	22	413	1	100 ~ 299
2017	3	11~12	第2作業場で生姜つゆの入ったカゴ（15kg位）を作業台に載せる際、誤って腰を負傷した。	23	911	19	30 ~ 49
2017	3	15~16	被災者は、包装機ライン8号機生産終了時、不要となった段ボールを台車に乗せてゴミ捨て場に運搬中に、既に生産を終了し水拭きをしていた包装機ライン7号機横を通過した際に足を滑らせ転倒し、臀部を強打した。	49	417	2	50 ~ 99
2017	3	10~11	冷凍缶に入った魚の脱缶作業中、脱缶機コンベアに缶を手で投入した際、缶の把手を倒そうと右手に差し入れたところ、固くて手袋の先が把手と缶のふちの間に引っ掛かり、脱缶機の反転口にそのまま缶が落下し、その重み（約20kg）で右手指がもっていかれ薬指先を切断した。	51	169	7	10 ~ 29
2017	3	9~10	被災者は製造課味付担当主任であるが、当日は包装機の作業に加わっていた。朝、生産開始されるラインにて海苔の切断状況等の確認中、海苔送り爪の不良ヶ所を発見し、様子を見ようとしゃがみ込み覗き込んだところ、手を出してしまい、回転していた海苔送りチェーンとスプロケットに右手人差し指から小指まで挟まれ負傷した。	38	165	7	50 ~ 99
2017	3	8~9	工場でカツオをさばいている時、誤って包丁で左手親指を切り負傷した。	59	364	8	10 ~ 29

2017	3	17~18	整備を終えた車（2t車）を脚立に乗って洗車している時、足が滑って落下し、地面に置いてあった容器で左脇腹を強打した。	42	371	1	1~9
2017	4	8~9	当社第5冷凍工場に於いて、冷凍魚の積載工程で空ポリパンの回収作業中、コンベアーから冷凍魚が落下左足に当たり、小指を負傷した。	27	529	4	50~99
2017	4	11~12	工場内作用場で調理釜から調理容器を取り出し移動させる作業を2人で行っていた際、相手とのタイミングが合わず相手の持っていた側が上がりすぎてしまい、調理容器が傾き、熱くなっていた調理液が流れ出てしまった。左手で持ち、前に移動して右足を前に左足が後ろに残った状態の時、合羽を着用しめくれ防止もしていたが、調味液が合羽を伝い後ろ端から長靴の中に流入して左足首内側を火傷してしまった。釜から調味容器を出して移動する際は時間をおいて冷やし、又、サロペット合羽を長靴の上から着用し長靴への流入を防ぐ対策をした。	58	379	11	10~29
2017	4	14~15	工場ではイカの耳をリングスライサーで処理しているとき、イカの耳が下のベルトにはさまっているのを取ろうとし、誤って左の薬指を負傷した。	27	165	7	100~299
2017	4	8~9	缶詰工場内で、缶詰製造の為の真空タンクを清掃していた時、左手で蓋をおさえていたが誤って手を放してしまい、蓋を落とした。その際、置いていた右手に落下し、人差し指と親指を挟み骨折した。	59	391	7	100~299
2017	4	9~10	工場加工室において、わかめの水戻し作業中、水戻し水槽（W240cm×D70cm×H80cm）から丸ザル（Φ55cm×H18cm）に入った水戻し済みの若布（約8~12kg）を約1m後方のローラー台（H70cm×D45cm）へ移動する際、腰に痛みを感じ、腰椎圧迫骨折を負った。	67	611	19	30~49
2017	4	10~	製造2課1号笹かま成形ラインで、笹かま成形作業中、串抜けトラブルセンサーが点滅したため確認したところ、2本抜けていた。1本は床に落下していたが、もう1本は串搬送ポケット部に落下しているの	19	165	7	100~

		11	を発見し、生肉の下に串があると思い、肉を素手で取り除こうとした際、隙間に指が入り巻き込まれ負傷した。				299
2017	4	19～ 20	工場での勤務を終え退出する際、外階段にて転倒した。	39	413	2	10 ～ 29
2017	4	14～ 15	納品のため、取引先駐車場で商品（40cm×60cm×14cmの箱）を両手に抱えて徒歩移動中、誤って車止めにつまずき転倒した。	66	417	2	30 ～ 49
2017	4	14～ 15	作業中に気分が悪くなり、トイレに向かう途中の廊下で気を失って倒れ、顔面を床に打ち、唇と歯を負傷した。	20	417	3	50 ～ 99
2017	4	0～1	水産加工でマグロの解体をしているとき、左腕の肘から指先にかけて感覚が麻痺を感じ、その後、指が動かなくなった。	62	921	99	50 ～ 99
2017	4	15～ 16	工場敷地内の側溝の溝を掃除する為に、ワイヤーを使って側溝の蓋を持ち上げた時に、ワイヤーがずれてしまった為側溝の蓋がワイヤーから外れそうになり、とっさに手を差し出したところ、落ちてきた側溝の蓋と地面の間に左手が挟まり、左手中指が少しえぐられてしまった。	41	372	7	100 ～ 299
2017	4	14～ 15	第2加工場内に於いて、資材を取りに移動中、誤って右足を滑らせ、弾みで床（コンクリート）にある排水弁を塞ぐグレーチング（フタ、縦・横515mm）に左足の踵が引っかかり、足が固定されたまま斜め横に転倒した為、左足首付近に負荷がかかり、左足を骨折負傷した。	31	417	2	50 ～ 99
2017	4	17～ 18	当社工場内において、グラインダーを使った冷凍魚の成形加工中に、魚が少し溶けていた事が原因で、手に持っていた魚が横滑りしてしまい、回転している刃物に左手前腕部が接触して負傷した。	22	165	8	100 ～ 299

2017	4	13～ 14	当社工場内の通路にて製品表示のシール数量の確認作業中、同じ通路にて同僚のフォークリフト運転手が出来上がった製品をパレットに収納してそれをフォークリフトで冷蔵庫に運ぶ際に、手前にあった台車に気がつかず、その台車を誤ってフォークリフトで押ししてしまい更にその先にあったパレットを玉突きしてしまい、パレットと壁の間で作業していた被災者が挟まれて右肩、胸を負傷した。	46	379	7	30 ～ 49
2017	4	10～ 11	ネギトロを生産するライン上で、右方向から流れてきたネギトロが、本人の左側にあるローラーで平らになるが、右側に気をとられて左手をついた際、ローラーに巻き込まれてしまった。	46	163	7	50 ～ 99
2017	4	12～ 13	当社加工室でサーモンの加工作業中、包丁が指に当たって右手人差し指を切創した。	47	379	8	30 ～ 49
2017	4	9～ 10	ライン生産中に、坐り機内のかすをヘラで取ろうとして、稼働（回っている）している坐り機内に左腕を入れたところ、作業服がベルトギアに巻き込まれてしまい左腕上腕部（二の腕）、左脇腹を挫創した。	29	165	7	300 ～ 499
2017	4	16～ 17	物流の自動倉庫内にてリフト業務をしている時に、物流レーン異常を示すパトライトが点灯し、自動倉庫に振り分ける装置の異常と判断した。急いで2課包装側の渡り通路から読み取り装置横の通路に登るため渡り通路の手すりによじ登り、詰まったレーン横の通路手すりの下側ガイドバーに手をかけようとしたところ手を滑らせ2m下の床に落下し、大腿骨骨折および舟状骨骨折を負った。	45	419	1	100 ～ 299
2017	4	13～ 14	生産1課製造区にて調合を行う機械の前を通る際に、土間で足を滑らせ右手をつくように倒れ、上半身右側を強打した。特に痛みがなかったのですが自己判断で業務を続行したが、せきをした際に右横腹に激痛がはしった。	68	417	2	100 ～ 299
2017	4	13～	当社工場内に於いて、のりをカットする機械で、材料の端切のつまる部分を掃除しようとローラーを拭く際に手に持っていた布が滑	44	165	8	10 ～

		14	り、右手くすり指が機械のミシン目刃にあたり、切傷を負った。					29
2017	4	15～ 16	工場内で午後のラジオ体操後、被災者が手を腰の後ろでにぎって前屈した時に、同僚があやまって後ろから被災者にぶつかり、後に手を握っていたので手を前に出せずに、工場内のコンクリートの床に前額部を強打した。	69	719	2		50 ～ 99
2017	4	15～ 16	鯉節製造工場内において、魚を並べるせいろを乗せた台車を押して工場内を移動中、コンクリート床が濡れていたため、滑って後ろ向きに転倒し、腰部・背中を強打した。	59	416	2		30 ～ 49
2017	5	15～ 16	さんま加工場にて、さんま加工品の前処理終了後の清掃中、洗剤を取りに行く際に作業現場の床がさんまの影響によりぬるぬる状態だったため転倒しそうになり、手をついた際に手首を骨折した。	68	416	2		50 ～ 99
2017	5	14～ 15	当社工場内において、製品原料のタコが入ったカゴ（縦50cm、横62cm、高さ30cm、重さ30kg前後）を2人で持ち上げた瞬間、ボキッとした音とともに両肩に痛みを感じた。	74	611	19		10 ～ 29
2017	5	8～9	当社工場内において生昆布のボイル作業中、ボイル作業が終わり、タンクから使用した熱湯を捨てている時に誤ってタンクに近付き、長靴に熱湯が入り左足甲を負傷した。	52	391	11		10 ～ 29
2017	5	16～ 17	カニの原料処理中、バランスを崩して転倒しそうになり、左手をついたところ左手を痛め、左肩の脱臼を負った。	30	417	2		50 ～ 99
2017	5	11～ 12	乾燥機工場において、製品が並んでいるキャスター付台車の移動中、保管されている空のキャスター付台車にぶつけ、左手人差し指を台車と台車の間に挟み裂傷した。	59	362	7		50 ～ 99
2017	5	9～ 10	工場で鯉の腹出作業を行っていた際、後部にて方向転換のため旋回したフォークリフトに積まれていた空のコンテナが倒れ、頭から背中付近に落下し、前のめりに倒れた。空のコンテナを乗せていたパレットが通常使用していない横板の少ないトーツ用のもので、かつ	65	222	4		100 ～

			横板の一部が破損していた事に気が付かずに荷役作業を行ったため、パレットのバランスが崩れ倒れた。				299
2017	5	14～ 15	当社工場内において、冷凍ホタテが入った段ボール（約16kg）をパレットに積み下ろし作業中、段ボールを持ち上げた時に負傷した。	46	921	19	50 ～ 99
2017	5	7～8	工場の製造室内で約20kgの解凍中のすり身を持ち上げた時に足に違和感を覚えた。その後足が痛くなり、作業ができなくなった。	31	921	19	50 ～ 99
2017	5	15～ 16	冷凍魚の加工中、持っていた魚の節が滑り、機械の先丸に右親指を当てて怪我をした。	29	165	8	10 ～ 29
2017	5	10～ 11	だし用鰹節原料処理の粉碎工程にて、削り節を粉碎機上部のホッパーに投入作業中、ホッパー内部で原料の詰りが発生し、機械が稼働した状態で怪我防止用網枠を開け手を入れた時、送りスクリーフフィダーに左手中指の先を挟み込まれてしまった。	59	165	7	—
2017	5	3～4	事業場内にて鮮魚の加工中、包丁で魚の頭を切り落としていたところ、誤って左手人差し指の爪の辺りを深く切ってしまった。	33	364	8	30 ～ 49
2017	5	16～ 17	工場内にて、グラインダーで4ツ割りのマグロを、右手で頭を持ち、左手で尾を持ち、皮を削る作業をしていた。マグロを前後させて削っていたとき、頭の骨がグラインダーの刃に引っ張られ、右手甲を裂創した。	48	165	8	30 ～ 49
2017	5	11～ 12	当社工場内において、海藻（ヒジキ）を計量し選別台に戻る際、コンテナ移動のローラーの端に躓き転倒した。	52	361	2	100 ～ 299
2017	5	16～	第一加工室において、食材の処理等を終え、作業台や作業台周辺等を洗浄していたところ、足を滑らせバランスを崩し転倒した。その	53	416	2	50 ～

		17	まま作業を続け帰宅するが、翌日に痛みがひどくなった。					99
2017	5	11～ 12	工場内でチリメン加工作業中、チェーンコンベアーの歯車に絡まり修復作業時に右手環指がチェーンコンベアと歯車に挟まり切断した。	46	224	7	1～ 9	
2017	5	15～ 16	工場で高温高圧洗浄機を使用して干し網を洗っていた時、右手で持っている手元が狂い、誤って左腕にしぶきがかかり火傷した。	63	519	11	～ 49	
2017	5	11～ 12	翌日に焼く予定の穴子原料を解凍機からプラスチック容器に移し替える際に転倒し、右肩と右腕を強打した。	66	416	2	～ 49	
2017	5	10～ 11	充填室で茶碗蒸しを製造している時、トップフィルムを押える棒でフィルムが既定位置よりずれていた為、ズレを直す為にフィルムに手を掛け調整していたが、目を離れた際にフィルムと一緒に手が持って行かれ、棒とバケットの間に入ってしまった。	31	165	7	～ 49	
2017	5	12～ 13	工場内の冷凍庫で、製品を台車に載せ、後ろ向きで出る時に冷凍庫扉を全開せず半開きの状態にしていた為、扉の内側にある非常脱出装置の鉄の棒と台車の間で左手親指を挟まれ骨折した。	43	391	7	～ 29	
2017	5	10～ 11	水産加工場入口付近にて、イリコの空箱を運んでいた際に足元が見えず、つま先を地面に引っ掛けてバランスを崩し、転倒した。転倒した際に地面に右手をつき、手首の筋を痛めた。	65	417	2	1～ 9	
2017	5	16～ 17	被災者は、第一工場で、原料を台車に載せ前向きに押していた際に台車の車輪が滑り、台車が被災者に覆い被さる様に倒れてきた。仰向けに引っくり返り、尻もちをつく様に倒れ、腰を打撲した。その際、倒れた台車の手すりが左脚に当たり、左脚を打撲した。	53	362	2	～ 299	
2017	5	8～9	加工場内において、煮干いりこの作業中、煮干を積んだ箕台を2人で移動しようとした時、片方がまだ準備が出来ていないのに気付かず、一方的に取っ手を引いたため箕台がずれ、右手中指先を挟み	72	379	7	～ 10	

			負傷した。				29
2017	5	9~ 10	当事業場の鯉の骨抜き作業場にて、骨抜き作業をしやすいするために熱湯をかける作業をしようと、熱湯が入ったバケツを両手（左右各1つずつ）に持って運んでいた。バケツを持ったまま、手で下に置いていた台車を押したところ、バケツが揺れてその反動で左足の長靴にお湯が入った。	20	715	11	10 ~ 29
2017	5	16~ 17	チリメンジャコ加工場において、製造後の乾燥機の清掃の際、乾燥機内部の底部分のチリメンジャコを取り除く作業中にエプロンのひも衣服がローラーに巻き込まれ、乾燥機本体とローラーに固定され、それによる圧迫と衣服の締め付けにより、首と脇の下に外傷を負い、頭部にプヨプヨ感とめまいを感じる。	60	342	7	1~ 9
2017	5	11~ 12	工場内で製造を行っている際に、そばが切刃に引っ掛かっているのを取り除こうと機械を止めずに指を入れ、切断された。	33	165	8	100 ~ 299
2017	6	8~9	工場内において、その日の仕事が始まりイカを焼くロースターの機械が動き出した際、うっかり右手を下側の歯車の所に置いており、右手人差し指を歯車に挟まれて出血したものである。	60	121	7	10 ~ 29
2017	6	11~ 12	本社工場梱包室内でリフト上の発泡入り、たらこ（2kg）を2個ずつ、2枚に重ねたパレット（高さ260m）に乗って、ローラー台に降ろす作業中、誤って足を踏み外して落下し、転倒して受傷した。	58	379	1	100 ~ 299
2017	6	16~ 17	工場の入り口ドアで内側から外に出ようと開けようとした時、他の従業員が外から入ろうと開けてきたので、半身になって内側から右手でドアを押さえて持っていた矢先に、右手が滑ってしまい、蝶番側の隙間に指が入ったところでドアが閉まり、負傷した。	67	418	7	100 ~ 299
2017	6	3~4	水流異物除去コンベアの洗浄後の設置作業において、コンベアの脚をてこの原理で持ち上げていた。作業は、その持ち上げている脚にプラスチックの土台を添えてゆっくり降ろすものであったが、降ろ	19	224	7	100 ~ 299

			す際に誤って、土台と床の間に指が入ってしまい負傷した。				
2017	6	13～ 14	当社工場内において、1階加工場の脱パンラインベルトコンベアー機の清掃作業中、機械を作動させながらホースにて水を掛けて清掃していたところ、当該コンベアーにホヤの破片が付着しているのを発見したため、これを取り除こうとした際、長手袋の一部がコンベアーの起動部に触れて巻き込まれ、右上腕部を骨折挫創負傷した。	38	224	7	50 ～ 99
2017	6	7～8	工場内の水槽の前にて、水を抜いた水槽内から、豆の入った籠を持ち上げ作業中、腰に痛みがはした。	28	611	19	10 ～ 29
2017	6	14～ 15	第四工場にて、反転機（洗浄器具）に釜を設置して、洗浄作業をしていた。反対側に移動しようとした際、反転機の脚に気付かず、右足を引っ掛け転倒した。右腰部をステンレス製の床に打ってしまった。	60	169	2	100 ～ 299
2017	6	13～ 14	加工場内にて、茹であがったシラスの入ったセイロ（77cm×107cm）を2人で持ち上げてパレットへ積み上げる際、入社初日のため不慣れでタイミングが合わず、左手を捻り負傷した。	40	379	19	10 ～ 29
2017	6	16～ 17	派遣先水産加工会社工場にて、グラインダー作業中に誤って手が滑り、左手の薬指と小指を切傷した。（血合い取り作業中、トンボマグロだったため油が多くて滑った。）	40	165	8	10 ～ 29
2017	6	16～ 17	当社加工場でパレットの中に重なり合っている大型の冷凍魚を、1尾ずつ持ち上げて原魚台に降ろす作業をしていた最中、腰を痛めた。	34	529	19	10 ～ 29
2017	6	9～ 10	ツナ缶詰製造場において、原料が入っているコンテナを両手で運んでいた際、下りの段差がある所を降りようとして、横に設置してあるホースに躓いて転倒してしまい、左膝を強打した。	66	611	2	100 ～ 299
			解凍場でお湯張り作業をする際、作業手順通り（水を通してから蒸気を出す）行ったはずだが、最初に蒸気だけが出てきたため、ホー				

2017	6	14～ 15	<p>スガ暴れ、ホース横にいた2名に生蒸気がかかってしまい火傷してしまつた。この日2回目のお湯張り作業だったので、1回目のお湯張り作業終了時に、しっかり蒸気バルブが閉まっていなかった可能性があり、微量だが給水管に蒸気が溜まっていたので、水より先に蒸気が出てしまつた事が考えられる。</p>	19	391	11	～ 49	30
2017	6	15～ 16	<p>当社冷蔵庫作業場にて、リフトでの作業後、リフトから降り、椅子方向へと向かっている時、地面に設置されているドアストッパーに躓いてしまい転倒した。転倒箇所には椅子があり、座面部分に顔から倒れ、その反動で首を痛めた。また転倒時に体も捻ってしまい、腰も痛めた。</p>	49	417	2	～ 49	30
2017	6	16～ 17	<p>工場内にて生産中に、裁断機第二カッター下のスプロケット（歯車）に挟まつた揉み海苔片を機械停止せずに手で取り除こうとし、右手中指爪の付け根を駆動中のスプロケットとローラーチェーンに挟まれ裂傷、切断した。</p>	59	165	7	～ 299	100
2017	6	12～ 13	<p>工場内2F廊下を昼休み開始のため食堂へ移動中、スロープ状になっている床面に足を滑らせ、尻もちを庇うため右手を床に着いた際、右手首を骨折してしまつた。</p>	50	417	2	～ 99	50
2017	6	16～ 17	<p>当社作業所において、冷凍マグロの加工で、当て板を当てて6cmにブックカットしている時に、400S機の刃に指が触れ、事故が起きてしまつた。</p>	21	165	8	～ 49	30
2017	6	10～ 11	<p>発送場で、コンベアラインの途中で梱包された商品が止まつてしまつたので、商品をコンベアラインに流そうと、コンベアラインの上に登り、コンベアラインを這うようにして、止まつている商品の所まで行き、ダンボールで作つた治具で商品を押し、商品を流し終えた。その後、床に降りようとして壁に手をつき、倉庫壁横にあるポールに足を掛けた時、足が滑り転落し、右肋骨を骨折した。</p>	31	224	1	～ 999	500
2017	6	11～	<p>工場内の作業台の上でドライアイスの原料を並べた時、ドライアイ</p>	47	611	7	～	30

		12	スとドライアイスに挟まり、左手薬指を負傷した。					49
2017	6	11～ 12	第一工場にて、フライヤーの粉付機を清掃後に移動させていた時、床面の凸凹に機械のキャスターがはまり、機械が倒れた。その際、機械に設置してあったタンクが落ちて来て、タンクの下敷になる様にして作業員も転倒し、腰部を打撲した。	59	379		4	50 ～ 99
2017	6	9～ 10	工場内所定の作業場で通常作業を行っていたが、出荷時間が迫ってきたため、通常13名の作業を20名に増やして作業を行ったので、作業スペースが狭くなっていた。作業上移動しようと振り向いた時に、足下の台（プラスチック製、85cm×65cm×20cm）に躓いて左足甲を挫傷した。	36	417		2	30 ～ 49
2017	6	10～ 11	事務所と店舗間の外階段において、商品の送り状を事務所から店舗へ持っていくため階段を下りている時、雨で濡れていた階段で滑って落ちそうになったため、バランスを取ろうとして膝を捻った時に関節が外れそうになり、足を床につけることが出来なくなった。痛みがあったが、我慢して業務を続けていたが、痛みと腫れが酷くなった。	43	413		3	1～ 9
2017	6	10～ 11	製造3課佃煮棟の計量室で、検査用のサンプルを採取する作業中に、湿度が高く結露して滑り易くなっていた床に足をとられて転倒し、手首を負傷した。	56	416		2	100 ～ 299
2017	6	9～ 10	自社加工場内で、外部より裁断（カット）依頼された冷凍鮪を小型帯鋸盤（バンドソー）を使い、約10cm間隔にカットする作業をしていた時に誤って滑ってしまい、右手人差し指を負傷してしまった。発生当時、安全防具のメッシュ手袋を着用していなかった。また、外部のお客様に早く作業するよう急かされて焦ってしまった。	37	165		8	50 ～ 99
2017	6	13～ 14	加工場内で、整形機を使い冷凍鯉の削り作業中、誤って整形刃に接触してしまい、右手前腕部を負傷してしまった。安全防具のステンレスメッシュ手袋は着用していた。	35	165		8	50 ～ 99

2017	7	10~11	被災者は、トイレに行った帰り、休憩室にて水を飲もうと立ち寄った際、床の水拭き清掃であったため、滑って足を捻った。被災当初は、軽傷と思い湿布を貼り作業に戻ったが痛みがひどくなったため、診察を受けた結果「右足関節捻挫」と診断された。	36	417	19	50 ~ 99
2017	7	14~15	当日は、加工場内に於いて、たこの頭の加工処理（頭の中の内臓を除去する作業）を行っていたところ、誤って左手人差し指を裂傷し、止血処置を行った。	58	364	8	50 ~ 99
2017	7	15~16	本社工場内、商品保管用の冷蔵室内において、真空包装が済んだ笹かまぼこが入っているプラスチック製折りたたみ式コンテナ（オリコン）を、同僚と2人で積み上げる作業を行っていた。身長よりも高い位置に積もうとした際に、同僚女性の方が小柄であったことから、乗せるタイミングがあわず、同僚のほうが先にオリコンから手が離れてしまったために、オリコンの間に被災者の左手の中指と薬指が挟まってしまった。	54	611	7	30 ~ 49
2017	7	13~14	自社の積み荷場で、パレット積みしてある製品を、トラックにパレットごと積んだ時に、トラックの扉が閉まらなかったので通常はリフトで積みなおすところを、今回は素手でパレットを押そうとしたところ、手が滑ってトラックの荷台とパレットの間に手を挟み負傷した。	43	611	7	10 ~ 29
2017	7	7~8	作業場で作業の準備を始めた時、移動中、下が水で滑っている。足を滑らせて転び、右手をついて骨折した。	67	417	2	1~ 9
2017	7	16~17	入社時よりガラスビンのキャップを両手で閉める作業において、両手首が痛くなり後日我慢できなくなった。	32	921	19	50 ~ 99
2017	7	16~17	原料場において、屋外から屋内に冷凍された原料を送り流す作業を行っている際に、原料が入っていた空の袋の空気を抜くために重心をかけた際にバランスをくずし、鉄製のカゴの角に左側の脇腹を強打してしまい、負傷した。	62	379	3	100 ~ 299

2017	7	8~9	<p>本社工場の加工場にて、成型機（先丸カッター）によるヒレカット作業中、機械上部に加工原料を置くため、加工原料を両手で持ち身体を機械に近づけた時、カッター一部が前掛けに接触することで巻き込まれてしまい、腹部右側上皮を約10cm×20cm範囲で損傷した。</p> <p>本来は、加工原料を機械上部に置くことは禁止された行為であった。又、本人の前掛けの着用の仕方が、きつくしっかりと前掛けのひもを縛っておらず、前掛けがダブついていたことも原因であった。</p>	19	165	8	10 ~ 29
2017	7	9~10	<p>魚肉ミキサー機で魚肉をミンチにする際一旦機械をSTOPさせて、ミキサーが完全に止まる前に取り出そうと右手を入れて事故となった。</p>	58	165	7	1~ 9
2017	7	14~15	<p>包装用フィルムを交換する際に、包装機の中に手を入れ、フィルムの端を引き出そうとしたところ、電源を入れたままだったため、センサーが反応し作動した包装機に右手首を挟まれた。右手を抜くことが出来ない状態だったため、電源を入れ直し、包装機が動き出した瞬間に手を引き抜いた。その際に右手小指側面に裂傷を負った。</p>	67	169	7	10 ~ 29
2017	7	9~10	<p>第2工場作業場内にて、作業場内が暑くて気分が悪く、頭痛がしていた。熱中症と診断された。作業場内の気温が33℃と高く、他の職員も同様に具合が悪くなる者もいた。会社が8日後に、エアコンを増設して作業場環境は改善された。</p>	60	715	11	100 ~ 299
2017	7	11~12	<p>加工場の共同加工台で鰹のハランボを並び終え、場所を移動している時に、加工台の足に自分の右足をひっかけ、バランスを崩し左足から横向きに転んだ。その時に左股関節あたりをついた感じになり、痛くてしばらく動けなくなった。</p>	66	921	2	1~ 9
			<p>被災者は、使用済みパレットを第3工場から第1工場へ移動する準備のため、1枚ずつ積み重ねる作業をしていた。既に3枚平積みされたパレットの上に4枚目を重ねようとしており、そのパレット（縦1100*横1100*高さ150mm、重さ24kg）を立て、平積みの3枚の</p>				100

2017	7	14~15	パレット（高さ450mm）に斜めに立てかけた後、パレットの下の部分を持ち上げながら滑らせるように重ねようとしていた。その際、上面にあるくぼみ部分に指をいれて持ち上げたところ、指が滑り左足甲に落下させ被災した。	45	379	4	~ 299
2017	7	9~10	錨のペンキを塗る作業をしていた。錆びていたためハンマーで叩いて錆を取っていたところ、錨が倒れて左足が下敷きになり、負傷した。	53	911	5	~ 299
2017	7	9~10	工場内でコンベアー修理中動いているチェーンに誤って右手中指、薬指、小指を巻きこまれ中指、薬指は切創縫合処理、小指は複雑骨折し手術となった。	49	224	7	10 ~ 29
2017	7	15~16	冷食工場1階F級冷凍庫内で、残った原料を秤付きパレットに乗せて（144kg）ラックの2段目に戻そうとして、ウォーカー（電動ハンドリフト：許容荷重950kg）を前進させた際、秤付きパレットの上部がラックに接触した為、バックさせた所後部のラックに置いてあった原材料のダンボールに臀部が当たったので慌ててしまい、操作を間違えて、ウォーカー後部の下部巻き込み防止カバー（硬質ゴム製）が左足に接触し、カバーが装着していたレガースを圧迫して被災したものと推察される。保護具は正しく着用していた。（安全長靴レガース、ヘルメット）ラックとラックの間隔⇒3.5m、パレットに差し込んでいる状態のウォーカーの長さ⇒2.5m、ウォーカー前後移動範囲⇒1m（レバー操作時は0.4mしかない）、被災者はフォークリフト免許所持者。	35	229	7	500 ~ 999
2017	7	9~10	開梱室において荷物の積み替え中に台車との間に右手指先を挟んだ。右手中指骨折、人差し指、薬指を打撲した。	47	611	7	100 ~ 299
		9~	当社工場内に於て、万鯛の加工処理作業中、作業台の上に乗せた万鯛の上身処理を終え、下身の処理に移るべく魚を反転させた際、魚				100

2017	7	10	が自重（約40kg）により横すべりしたため、これを支えようとしたが魚の重みに耐えきれず、突然左上腕部から頭キツという音と伴に激痛が走り、左上腕部の腱を断裂負傷した。	57	529	19	～ 299
2017	7	7～8	ホタテの水揚げ作業が始まり、早朝より洋上での水揚げ作業を行い、加工場に持ち込みホタテカッターへ1枚ずつ投入する作業を担当していた。重いカゴを持ち上げる作業と連続してホタテを投入する作業で手首に負担がかかったと思う。左手首の痛みを感じ翌日に右手首も痛くなったので手首用サポーターで保護し無理のない作業をした。翌々日に水揚作業後痛みが増し両手首がつかえない状態となった。	42	529	19	1～ 9
2017	7	8～9	本社工場1階前室にて床の清掃作業中に被災労働者が誤って足を滑らし、転倒したものと考えられる。	61	417	2	50 ～ 99
2017	7	9～10	業務中、雨天時に車で走行中、カーブを曲がる際にスリップし、遮音壁に衝突した。その際、胸部をハンドルに強打し被災した。	58	231	17	50 ～ 99
2017	7	18～19	作業中、採肉機で中おちの端材を引いているとき、話をしていたよそ見をした瞬間に、右手が原料ごと機械に持っていかれ、右手肘まで機械の中に入ってしまった。安全教育済みであったが、原料を押し込める際にT字棒を使用していなかった。	22	165	7	100 ～ 299
2017	7	18～19	業務終了後の退社時、社員玄関を出て階段を下りるとき、躓いて左足首を捻ってしまった。	55	921	19	300 ～ 499
2017	7	14～15	水産加工場第1加工室において、シイラ（鮮魚）の3枚おろしの作業中、右手人差し指に痺れを感じたが、我慢できないような痛みではなかったので、そのまま所定時間より30分程多く仕事をして帰宅した。原因は、シイラ加工の仕事が多くなり、疲労が蓄積されたためと考えられる。	41	921	19	10 ～ 29

2017	7	15～ 16	午後の休憩時間が終了したため、休憩室から仕事場に入るため長靴が置いてある所に向かって、スリッパを履いて歩いていたとき、床が少し濡れていたため、足が滑って転倒し負傷した。	49	417	2	10 ～ 29
2017	7	12～ 13	工場内でアジの皮引きを行う際、ベルトにのせてアジフィレを流し、別の労働者が皮引き後のフィレ受け取りを行っていたときに、皮引きがうまくいかず行き詰まり、止まってしまった。行き詰まりを解消するために手を入れたときに戻って、巻き込み口に手が接触し、巻き込んだ手袋に引っ張られて、手を巻き込んでしまい、手の甲の皮が手首付近まで捻れた。	20	165	7	30 ～ 49
2017	7	16～ 17	フォークリフトで廃棄物を集積場に運搬する作業をしていたとき、通路の坂道の途中で、フォークリフトの後部にのせていたバケツが落下したため、車両を停車し、降車してバケツを拾うため坂道を下り歩いていた。その際、パーキングブレーキを掛け忘れていたためフォークリフトが自重で下り始め、自身と衝突しそうになったため、逃げようとしたが間に合わず、フォークに抱えていた運搬容器と通路のコンクリート壁との間に挟まれ負傷した。	51	222	7	100 ～ 299
2017	7	14～ 15	冷凍鯉をグラインダーで整形中、メッシュ手袋着用を怠り、誤って左手親指を回転盤に接触させ裂傷を負った。一瞬のことで、本人もどうして接触したかは、定かでないとのことである。	30	165	8	10 ～ 29
2017	7	17～ 18	事業場において、冷凍魚を切断中、誤って右手親指がバンドソーに触れてしまい、指を切ってしまった。	30	165	8	10 ～ 29
2017	7	12～ 13	退社時に玄関の段差で転倒し、両膝と右肘を打った。	62	418	2	10 ～ 29
2017	7	15～	被災者は、ミンチ作業終了後、通常通り電源を落とし、ミートチョッパーを分解して亀の子タワシでこすり洗いしていた。機械本体上部のスクリューを洗っているときに、機械本体とスクリューの	31	165	7	300 ～

		16	隙間に右手小指が入ったため、慌てて引き抜いたところ、スク リュウの縁で小指上部を裂傷した。				499
2017	7	16～ 17	工場内の休憩室を清掃していた。翌日より連休となるため、電気 ポット内に残ったお湯を洗面台に排水した際、ポットの上蓋が外 れ、自分の足の甲にお湯がかかり被災した。	57	391	11	～ 99
2017	7	1～2	ライン作業が終了し、設備の掃除をしているとき、掃除対象のロー ラーの汚れが気になり、下からタオルで拭き取ろうとしたところ、 タオルが稼働しているローラーに挟まり、タオルを持っていた右手 の親指と人差し指がローラーに巻き込まれた。	56	224	7	～ 299
2017	7	8～9	焼売成型作業において生産中、蒸し機出口での製品トラブルに対処 しようと、製品搬送傾斜コンベア架台下を通り抜けるとき、傾斜 ネットフレームに頭部が接触し、その勢いで後方に転倒した。その 際、フレーム角部が頭部に接触したことによる裂傷、および転倒時 に床で背中を強打したことによる肋骨骨折となり、骨癒合までは2ヶ 月を要するとの診断を受けた。	46	417	2	～ 299
2017	7	13～ 14	沖で空生簀を曳航し、係留するために100径ブイに近づけた。その 際に、2名が係留ロープを取るため泳いでブイに近づいたとき、船長 が注意を促し、1名はブイを離れたが、1名は聞こえずその場に留 まったため、船長が危険と思いエンジンの回転を下げたと同時 に、100径ブイの耳に掛かっていたロープが跳ねて、被災者の側頭部 を強打した。	22	379	6	～ 299
2017	9	9～ 10	工場内で解凍したまぐろ原料を包丁でトリミング中に、手を滑らせ て左手中指を切っしまい、3針縫う怪我を負った。	43	364	8	～ 29
2017	9	9～ 10	凍結庫から台車を出す時、壁と台車の間は狭い為工夫しながら持っ ていたが、右手親指を挟んだ。	35	362	7	～ 99

2017	9	9～ 10	本社工場の1階で冷凍した鮭をダンボールに詰めている時にダンボールに詰める前の鮭が滑って落ち左足の甲にぶつかった。	62	611	4	50 ～ 99
2017	9	16～ 17	被災者は食品工場にていくら醤油漬けトップシール機の清掃作業を行っていた。機械を停止しカウンタークロスで拭き掃除をしていたところ、トップフィルムを切断するための刃に右手を接触させてしまった。	38	169	8	100 ～ 299
2017	9	10～ 11	被災者は第5食品工場にて生冷ムキ蛸の皮剥き作業をしていた。使用していたザルを片付け、持ち場へ戻る際、床の破損していた部分に躓いて転倒した。その際、床に左手からついてしまい、手首を骨折してしまったもの。	64	416	2	100 ～ 299
2017	9	15～ 16	パレットに12段積み上げられた、氷が入った発砲をローラーに4箱ずつ移す作業を午後行った。作業後背中、腰に激痛、足にしびれを感じたがたいしたことはない様子を見た。	67	921	19	100 ～ 299
2017	9	12～ 13	当社加工場内において、鮭の加工終了後、道具の洗い物をしている時、作業台の上にあったバケツを持って移動しようとした際、足元が滑り転んで、左肘を負傷した。	70	416	2	10 ～ 29
2017	9	10～ 11	当社工場乾燥した昆布の両端を専用機で裁断しているときに、誤って左人差し指を負傷した。	22	165	8	10 ～ 29
2017	9	17～ 18	当社敷地内のホタテ工場洗い場にて、床に縦に置かれていた洗浄済みのパレット（縦130cm×横130cm×高さ13cm・重さ27kg）を横に置こうとして掴んだところ、手を滑らせて右足甲の上に落としてしまい、骨折したものである。	58	379	19	100 ～ 299
2017	9	16～ 17	冷凍工場前で、輸出用の製品にシール貼りの作業中、傾斜地に駐車してあったフォークリフトが勝手に下がってきて後輪が右足の上を通過し、右足甲を打撲した。	21	222	7	10 ～ 29

2017	9	13~ 14	当日は、フレッシュ若芽カット作業を行っていた。午後の作業開始直後、裁断していた若芽が刃の部分に詰まったため、安全カバーを右手で持ち上げて電源を切り、設備をOFFにして左手で詰まりを取り除こうとした。刃がすぐに止まらないことを注意しないで手を刃の部分に入れてしまい、まだ止まっていない刃に、左手指が切断された。	38	165	7	30 ~ 49
2017	9	12~ 13	下処理室にて鮭の処理作業終了後、床がぬれていたのと細かい残渣があり滑りやすい状態だったため、左足をすべらせて転倒し後頭部と左脇腹を打った。	62	417	2	50 ~ 99
2017	9	9~ 10	カニカマ用の真空パックを平らにする（延ばしの状態にする）ために、圧縮ベルト（上下にゴム製ローラがあるその間に真空パックを挿入する）に、右手で真空パックを挿入設定していたが、設定の調整の際にスイッチを一時停止にしないまま行った為、右手が圧縮ベルトに挟まれてしまい負傷したもの。	48	165	7	10 ~ 29
2017	9	17~ 18	計量室に袋を取りに行った際に転倒した。転倒時の計量室は作業終了していた為、電気が消えており被災者は電気をつけずに室内に入り床が濡れているのに気がつかずに滑って転倒し、右ひじを床に強く打ち右肩が上がらなくなった。	52	416	2	300 ~ 499
2017	9	9~ 10	工場において、資材を生産ラインに供給する高さ約3.5mの架台の上での作業中、ハンドリフトにて資材を移動していたところ前方に設置してあった落下防止用パレットに接触したため、荷崩れしそうになった資材を整列（通そうと全面に回りこんだところ）足を滑らせ架台より落下し負傷した。従来高所作業場である架台には全面に安全柵は設けてあるが、現在資材供給機器の増設計画実施のため、架台を拡張したばかりであり、機器納入のため一箇所だけ安全柵を設置しておらず仮の落下防止パレットを設置し、納入後に全面的に安全柵を再設置する予定であった。	20	418	1	10 ~ 29
							100

2017	9	8～9	作業場入室の際、水産加工の床が濡れていて足がすべり、右側に倒れた際、手に荷物を持っていた為なのか、右腕を痛めた。	65	416	2	～ 299
2017	9	7～8	加工場内のプレハブ冷凍庫に、原料を取りに入り、取り出そうとした味噌だれの一斗缶に足をすべらせて後方にこけたとき、右腰上をぶつけて負傷した。	65	417	2	～ 99
2017	9	16～ 17	当社工場内に於いて、生産終了による片付をしていた最中、工場内を点検したところ水中ポンプ（移動式自動5kg位）が足位置に片付けられていなかった為、持ち上げたところ手がすべりそのまま落下、その際右足薬指に当たり負傷する。	35	169	6	10 ～ 29
2017	9	13～ 14	凍結した漬けを入れたトレー（厚さ5cm位）を20段2列（40枚）を台車の乗せ、冷蔵庫から加工場へ搬送途中リフトを接触。リフト乗務員は被災者を確認した時点で停止したが、被災者は間に合わず停止していたリフトのツメの先端にのりあげる状態で接触。（台車に積んでいたトレー3～4枚くずれ程度の衝撃）その際、右側にあった3t秤の台に転倒し負傷した。	52	222	6	50 ～ 99
2017	9	11～ 12	当社工場内にて、タンクの進行を避けようとしたところ、足下にあったタル用台車にけつまずき、バランスを崩し転倒、右膝の打撲と右足首をひねるが、当日は大丈夫だと思い帰宅したが、翌日痛みが引かず病院で治療を受ける。	33	362	2	50 ～ 99
2017	9	9～ 10	屋外の浮き置場にて、浮きを抱えて移動中、足元が見えなかった為ロープを踏んでしまいつまずいた際に、右足かかと、ふくらはぎを打撲・捻挫した。	28	417	19	1～ 9
2017	9	17～ 18	主な作業が終わり、作業場でコンベアの清掃をしていた、床も清掃で濡れており、清掃前に靴底は洗い流していたが、海苔粉が落ちているので、滑りやすい状況にあり、滑って転倒した、転倒時、右腕をついて身体を支えたが、右腕に痛みが発生し動かせなくなり、右橈骨遠位端を骨折した。	22	417	2	50 ～ 99

2017	9	16～ 17	第1工場第四作業室味付4ラインにおいて作業終了後、機械を停止せず海苔集積ローラー下部をスタンダード（清掃用布）で清掃中、スタンダードと共に左手を駆動チェーンに巻き込まれ負傷した。	27	165	7	300 ～ 499
2017	9	7～8	天ぷらの機械のギアを入れるときに刃の下に手を置いていたので、刃にはさまって右手の親指の先がつぶれた。	45	165	7	30 ～ 49
2017	9	12～ 13	従業員休憩所で休憩をとった後、次の作業にとりかかる準備をはじめた、長靴を履くために右手で戸につかまろうとしたところ、手が届かず、体がよろめき、そのまま顔面から倒れ、額右側から頭部にかけて強打した、額右側から頭にかけて腫れ上がり、鼻の下も負傷した。	73	416	2	10 ～ 29
2017	9	16～ 17	工場1階の原料搬入口において、原料搬入作業が終わりフォークリフト操作の為、原料を搬入する所から約1.2m下の地面へジャンプしたところ着地に失敗し、右足首をひねった。	33	417	3	10 ～ 29
2017	10	10～ 11	工場内の攪拌作業前にて、攪拌電源を作動したまま攪拌機の中に付着していた水滴を拭こうとして誤って手を入れた為、右手を負傷。	64	165	7	10 ～ 29
2017	10	13～ 14	魚の処理工場で製品を運び終わり戻る最中に床が濡れていた為、足を滑らせ転倒した。その際、頭を強打したもの。	62	417	2	50 ～ 99
2017	10	8～9	会社敷地にある駐車場にて自家用車から降りて工場内に向かう途中、何か（不明）につまずいて足をとられ前のめりに転倒、左手を負傷した。始業前であり、手に痛みがあった為、そのまま帰宅した。	59	719	2	50 ～ 99
2017	10	14～ 15	冷凍庫の2階部分で商品を整理作業中、足元が滑り2階（約3.5m）から転落し負傷した。落ちた時に一度1mほどの高さに積んであった段ボールの上に落ちた後、さらに下に落ちたもの。	39	416	1	30 ～ 49

2017	10	11～ 12	当工場内でカップを洗ってお昼の休憩に上がろうとしていたところ、近くにいた人と右足がぶつかり通路上で転倒し、負傷した。	61	417	2	50 ～ 99
2017	10	11～ 12	包装作業場にて、から揚げ製品の計量、袋詰めシール、包装作業をしていたところ、次々と流れてくる製品に対応しきれず、袋詰め包装作業する物がたまっている状態となった為、近くで作業していた他の職員とトラブルになり、カッとなったその職員に体当たりされ、転倒し負傷した。	58	921	90	10 ～ 29
2017	10	17～ 18	掃除作業時に左手に残渣の入ったバケツを持ち移動中、床に足を滑らせて仰向けに転倒した。その際、右手を床につけてしまい、手首を骨折した。	72	417	2	50 ～ 99
2017	10	10～ 11	形成機から異音が発生した際、稼働中にカバーを外しチェーンの張りを確認する際、運転スイッチを止めずに sprocket に触れてしまい、左手人差し指と中指が挟まってしまい怪我をした。	56	121	7	100 ～ 299
2017	10	21～ 22	加工場で作業台を移動していて、台に左手薬指を挟んで骨折した。	46	391	7	100 ～ 299
2017	10	10～ 11	社員食堂の調理場にて、高さ85cmの冷凍庫の一番下に入っていた食材を取ろうと、手を伸ばしたがなかなか届かなかった。無理をして冷凍庫に体を押しつけながら取りあげたが、肋骨に痛みが生じた。レントゲンを撮った結果、骨折していた。	64	391	3	100 ～ 299
2017	10	16～ 17	梱包室にて、清掃作業中、ゴミを捨て振り返った処へ移動中のステンレス製台車が滑り込み、右足に当たり負傷した。	43	362	6	50 ～ 99
2017	10	12～ 13	得意先へ商品を引き取りに伺い、貨物車へ搬入するために右足を荷台のステップへかけた時に、雨で濡れていて滑ってしまった。その時、そのまま左後方から地面へ落ちてしまい、腰椎を骨折してしまった。	69	221	1	30 ～ 49

2017	10	10～ 11	工場内、かつおパック小袋充填包装機が異常作動（異常振動）している事に気づき、原因を特定するため、カバーのセンサーを解除し、包装機を作動させながら異常振動箇所を手で触れて調べていた時、窒素ガス充填ノズルを上下作動させるカムと包装機架台天板の間に右手を挟まれ裂傷した。	31	166	7	100 ～ 299
2017	10	10～ 11	自動工場にて、ひじきをストックコンベアに投入作業中に、ストックコンベアの横に置いたカマが右大腿部に刺さり、右大腿部切創、右大腿四頭筋損傷をした。	42	364	8	50 ～ 99
2017	10	11～ 12	当社作業所において、小鋸機A-16を使用して冷凍マグロの血合い部分をカットしている際に、出たカスを手で払おうとしてうっかり刃に触れ、左手親指を切った。	27	165	8	30 ～ 49
2017	10	10～ 11	当事者がX線で除去された製品の再処理を行っていたときに、再処理の製品が入ったコンテナ（幅38cm）を手を持ち、X線の横の道路（幅50cm）を通ろうとした。その際、コンテナがX線に当たり、その反動でコンテナに胸部を勢いよくぶつけ、右肋骨にヒビが入った。	53	417	3	100 ～ 299
2017	10	13～ 14	製造課成型包装係にて、縦ピロ包装機フィルム切り替えのため、フィルム交換作業実施後、日報で使用する日付が印字された製品の入っていない空のフィルムを採取しようと、手動で包装機を動かし、包装機下から手を入れて空のフィルムを引っ張ろうとした。その際、包装機正面には安全カバーの扉が付いているが、包装機下から手を入れて、手を伸ばせば横シーラーに手が届く状態であり、焦りもあったことから指先が横シール部付近まで到達し、動いている横シーラー一部に左手中指が挟まれて、指先を切断した。	46	169	8	300 ～ 499
2017	10	16～ 17	当社第一工場の調理場で、冷凍サバのフィーレを切り身にする作業をしている時、終業時刻が迫っていたこともあり、右手で持っていた包丁の手元が狂って、フィーレをおさえていた左手の人差し指を切って負傷したもの。	65	364	8	100 ～ 299

2017	10	11～ 12	当社工場内で片付け作業中に被災。被災者は、昼休憩前の片付け作業をしていた。作業台にあった空のポケット（プラスチック製、縦300mm、横200mm、厚さ100mm）を4枚両手で持って洗い場に行こうとしたところ右足踵付近が床に置いてあった台車に当たり台車が動いたため、左足で踏ん張った際に左足膝部分に痛みが生じた。	42	362	19	～ 299	100
2017	10	12～ 13	当社さば加工場内で機械横の通路を移動中、油分を含めた水分が床にあり、前方に足を滑らせ後ろ側に転倒、後頭部を床で打ち、たんこぶができた。こぶも大きく、首の痛みを訴えた（1週間以上の休業見込みあり）。	68	417	2	～ 99	50
2017	10	14～ 15	工場内で脱パン（ステンレス製の皿）作業をしていたとき、頭上に設置してある集魚用シューター（重さ17.5kg）の上に載っている魚を下からホウキの柄で突いて落とそうとした際、集魚用シューターがはずれて落下し右手甲に当たり受傷した。冷蔵庫内での作業。	23	391	4	～ 299	100
2017	10	8～9	被災者は当社鯉節加工場内で、鯉を左手に持ち、右手に包丁を持って三枚に卸す作業をしていた。その際、過って包丁の刃先が左手中指の先端に触れ、負傷したもの。	21	364	8	～ 29	10
2017	10	7～8	鯉節製造工程の生切作業中、切終えた鯉を釜茹でするため鉄製のメゴ（正方形の容器）に並べる作業に従事していた。メゴはあらかじめホイストで吊り上げられるようにチェーンを付けた台の上に置かれ、10枚重ねられるとチェーンをホイストで吊り上げ茹で釜に入れられる仕組みで、吊り上げ担当者は吊り上げ開始の合図を発して安全を確認して作業したが、どうした弾みが被災者は左手をメゴに添えており吊り上げたチェーンで指を挟んで負傷した。	28	372	7	1～ 9	
2017	11	16～ 17	工場内で原料を洗い、横70cm縦70cm程のザルへ入れ、台車へのせて冷蔵庫へ運ぶ作業を行っている際に、台車のバランスが崩れ転倒した。負傷当日は報告せず帰宅し様子を見たが、同日深夜痛みが強くなった。医師より、「左膝すべり症が転倒により悪化した」と診断	66	362	2	～ 99	50

			された。（雇用時より膝の痛みを訴え、階段が上がれないなど、作業に支障があるとの認識あり、通院歴はないとのこと。）				
2017	11	13～ 14	他社のパレットに入っている冷凍イカを自社のパレットに積み替える作業をしていた時、冷凍イカを置く際に左手を抜く前に誤ってイカを置いてしまった為、イカとイカの間に指を挟んで負傷した。	25	611	7	50 ～ 99
2017	11	17～ 18	リフター間にて、通常歩行時、足を滑らせ転倒した。尻餅をつく形で後方に転倒したが、転倒した際に右手首を捻り、そのまま作業を続けたが、時間が経つにつれ痛みが増した。診断の結果、右手首の捻挫と判明した。	49	921	2	300 ～ 499
2017	11	9～ 10	4階ロビーで清掃時、床埋め込み型コンセントが開いている状態に気付かずコンセントに足を引っ掛け転倒した。転倒の際、顔面を壁にぶつけ額を切り出血し、左まぶたを強打した。	63	362	2	100 ～ 299
2017	11	9～ 10	段差20cm程の階段で社員2名で荷物を2Fから1Fへ運搬作業中、階段を踏み外し、顔面から転倒した。その際、地面に右手をついたため、骨折した。	60	391	7	100 ～ 299
2017	11	10～ 11	海苔の集積機の動作を再起動させた直後に機械の隙間に海苔が1枚挟まっていることに気付き、取り上げたところベルトを動かすチェーンの回転に左手の小指が触れてしまい出血した。（原因）機械を止めて安全を確認してから海苔を取ることを怠った。海苔取ることに気をとられ、すぐそばにある回転しているチェーンに注意を払っていなかった。	38	121	8	1～ 9
2017	11	11～ 12	工場内で、バインダーを見ながら歩いていて、躓いて、転んで骨折をした。	52	417	2	50 ～ 99
2017	11	10～ 11	鯖の焼き加工の為焼成機から流れてくる網を受け取る作業に従事していたが、タイミングトラブルで網が機械から落ちそうになっていたため、慌てて小走り気味で網を受け取りに行ったところ、足元が滑りお尻から転倒してしまった。	56	417	2	10 ～ 29

2017	11	13~ 14	2階製造部の乾燥工程前に昆布を干す作業場において、歩いて移動する際に床に落ちている昆布を踏み、足を滑らせて転倒した。転倒した際に、まず肘をつき体を床に打ちつけ、顔面も床に打ちつけた。顔面を強打した際、差し歯が取れてしまった。また全身を強く打撲ししびれが発生した。事故当日は一般外来の診察が終わった後だったため病院には行かず、まずは近隣にある歯医者で診察治療を受けた。歯の治療に関しては事故当日の診察のみで終了し、翌朝から病院で体の打撲の診察を受けた。	47	419	2	100 ~ 299
2017	11	9~ 10	当社2階加工場において冷蔵庫への搬出入作業中、冷蔵庫から出たところで足を滑らし左側面から転倒、左肩を打撲し、診療の結果、肋骨骨折が判明した。	56	417	2	50 ~ 99
2017	11	13~ 14	作業場構内にて歩行移動中、左膝をコンテナに当てバランスを崩し右膝を地面に強打した。歩ける状態ではなかったので、救急車に連絡し搬送された。	59	611	2	50 ~ 99
2017	11	11~ 12	当社脱甲工場内で、カニの甲羅を外す作業中、脱甲機のレーンにカニが流れて来るのを待っている時、動いている脱甲機のレーンの上に右手を置いてしまい、右手親指先を機械に巻き込んでしまった。出血も少なく、痛みもなかったのでしばらく様子を見ていたが、右手全体が腫れてきたので病院へ行った。	20	165	7	50 ~ 99
2017	11	16~ 17	工場1階作業場で、昆布の切断作業をしている時、昆布と一緒に右手人差し指から小指までを、切断機に巻き込まれた。事故原因は、昆布切断機の回転刃を覆っている安全装置のカバーを外し、又自動停止スイッチをオフにしていたためと考えられる。	47	165	7	10 ~ 29
2017	11	17~ 18	資材倉庫でハンドリフトで荷物を運んでいる時にハンドリフトがへこみに引っ掛かった為、人に後ろから押してもらい本人は引っ張っていた。ハンドリフトがパレットから外れ、そのはずみで、ハンドリフトが足に当たり骨折した。	46	222	7	30 ~ 49

2017	11	13～ 14	加工場下処理室にて、鯛の下処理作業中、手袋と軍手をしてエラを取った時にチクッと痛みを感じ、確認したが、出血もなく、何も刺さっていなかったので仕事を続けた。翌日、少し痛みがあったが応急処置をし、翌々日まで仕事をした。痛みと腫れがひどくなったので、病院の救急外来を受診した。次の日に別の病院を受診した。点滴治療をしたが腫れが酷く、化膿した部分を切開した。	62	529	8	30 ～ 49
2017	11	17～ 18	工場2階倉庫に包装フィルムとダンボールを取りに行った帰り、階段を下っている際、下から2段目を踏み外し転倒し右足首を負傷した。	39	413	1	30 ～ 49
2017	11	18～ 19	本社敷地内において、工場勤務終了後、車で帰宅するために本社工場建物出入口の外側にあるコンクリート製のスロープを降りようとしていたところ、雨で濡れて滑り易くなっており、途中で足を滑らせ、スロープ横側の段差下のアスファルト地面にうつ伏せの状態転倒した。その際に頭部前面を負傷した。履物はスリッパを履いていた。	57	417	2	50 ～ 99
2017	11	8～9	低温加工処理室において、冷凍鰹の血合い取り作業中に、整形機械の先丸型カッターに触れ右手親指第1部位の皮膚が剥離し出血した。当日は、朝から70kgの冷凍鰹の整形、血合い取り作業であったが、雌節焼玉を押し込んで引く際に雌節の内臓跡部分に亀裂が入り、その反動で先丸刃に傷病部位も接触し皮膚が剥離し出血するに至った。	32	165	8	30 ～ 49
2017	11	7～8	被災者は、鰹節工場内で鰹の生切り作業中、包丁で魚の背皮をはぎ取る際に魚を持っていた左手人差し指先端に包丁があたり切ったものである。	19	364	8	1～ 9
2017	12	11～12	フレーク工場内の原料一時保管用冷蔵庫前において、冷蔵庫入口上部の清掃作業を、フォークリフトに装着したパレットに乗り行っていた。パレット上の作業者は装着が決められているヘルメットを装着しておらず、また、リフト操縦者も経験が浅く、リフトを後退さ	49	222	1	50 ～

			せる際に、パレット上の作業者に安全姿勢を取るよう指示しなかったため、後退時にリフトが揺れ、その際、パレット上の作業者がバランスを崩し落下し、頭と腰を強打した。					99
2017	12	7~8	会社に出社し、駐車場にて車より降りようとした際、右足を滑らせて凍結していた地面に、右手をついて右手首に負傷したものである。	63	719	2	~	99
2017	12	17~18	第一工場で鮭とばフィレのスライス作業中、切断されてコンベアで流れてくる鮭を待ちきれず取ろうとして奥まで手を入れてしまい刃先に指が触れてしまった。	72	169	8	~	49
2017	12	13~14	魚函（発泡）を運んでいるときに段差につまずき転倒し、左脇腹を打ち負傷したものである。	73	417	2	~	29
2017	12	16~17	構内作業場に於いて、鮭フィレ製造の為の魚体洗い作業を終え、清掃作業に入って、魚体洗い装置コンベアの解体洗浄中に、部品を跨いで移動しようとした際に、着用していたゴム製エプロンが体に密着して動きを妨げた結果、左前方に転倒し左ひざを強打し負傷した。	59	379	2	~	49
2017	12	16~17	当日は、会社内工場に於いて、梱包作業を終え、フロアーの清掃作業に入ろうとした時、急ぎ足で歩いた為、足が滑り転倒した。その際、咄嗟に右手で身体をかばった為、右手首を負傷した。	38	417	2	~	49
2017	12	11~12	工場内で袋詰め作業中に、誤って機械の下へ手を入れてしまい、左手小指第二関節部を負傷した。	50	169	7	~	49
2017	12	22~23	流通センターのプラットホームに上がろうとした際、後方に転倒して後頭部を打ち切ってしまった。	46	413	2	~	49
			自動冷蔵倉庫内で、棚卸し作業をしていた被災者が、2階建てラック					

2017	12	18~19	の2階部分の一番奥の場所で作業を行っていた際に、40cm程の柵のない部分から何らかの事由により、バランスを崩し、2m程下の床面に墜落した。すぐに病院へ搬送されたが、翌日に死亡したものである。	38	416	1	~	300 499
2017	12	17~18	加工場内で、バンドソーを使用して冷凍マグロの加工作業中、誤って手を滑らせ、右手親指がバンドソーの刃に接触し負傷した（メッシュ保護手袋未着用）。	41	165	8	~	30 49
2017	12	12~13	当社第2工場内にて現場片付け中に、平型カッターボディを両手で2個持った状態で、床で足を滑らせ転倒した。その際に平型カッターボディと床に左手小指を挟み、左手小指を負傷した。	45	379	2	~	30 49
2017	12	3~4	同社工場内において、同僚が運転する保冷車に製品を積み込むため、作業場のプラットフォームで被災者が待機中、当該保冷車がバックでプラットフォームに到着した。被災者が荷台に乗り込もうとして足を荷台にかけたとき、車が停止位置を再度直そうと前方に移動したため、危険を感じ、咄嗟に1m下の地面に着地した際、左足踵に体重がかかり骨折した。	70	417	3	~	50 99
2017	12	9~10	工場内にて年末の大掃除作業中、誤って84cmの踏み台から落下し、左手で支えたところ、左手首にひびが入った。	63	391	1	~	30 49
2017	12	7~8	2F仕上場に設置してある、周囲に手すりと落下防止柵を両立している計量機の始業前点検中、高さ1.5mの架台に上り日常点検をしていた際、バランスを崩してしまい床面に落ち、左肩を強打した。	58	418	1	~	50 99
2017	12	10~11	釜あげしらすトップシール機（チェーン駆動の可動機）において、トレー圧着部のしらすを取り除く作業を行っているとき、トレー上の異物を追いかけてすぎて、圧着ローラーに指が巻き込まれてしまった。	48	165	7	~	30 49
2017	12	10~11	加工場内で荷物を運ぶ途中、置いてあったカゴに気づかず、躓き転倒し、その際に手をついたため、左手首を骨折した。	60	999	2	1~	9

2017	12	5~6	海岸の岸壁作業スペースで水揚げの準備中、作業段取りをしているとき、ハマチの生け簀から水揚げをするために岸壁に移動式クレーンを停止させ、作業員が当該クレーン車を固定させるため、アウトリガーを路面に接地し作動したところ、被災者は魚を死滅させる機械のコンセントをプラグに差し込み作業をしており、アウトリガーに右足を踏みつけられ負傷した。	42	212	7	50 ~ 99
2017	12	13~14	工場内製造部の臼場にて、3mの脚立の上から2段目に乗り、壁の上部についているすり身や汚れを落としているとき、誤って落下し、右足踵を打った。脚立の滑り止めチェーンを張ってから作業するところを、ゆるんだままで開始したため、脚立が動き出し、飛び下りた際に右足踵を強打し骨折した。	47	371	1	30 ~ 49
2017	12	11~12	仕事を終えて帰宅するため、両手に作業着・長靴・バッグを抱え、正面玄関から向かって、左の方向へ小走りに出たとき、地面（アスファルト舗装）で左足（長靴着用）を捻って、そのまま左肩を下向きに転倒し、負傷した。	74	417	2	10 ~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html